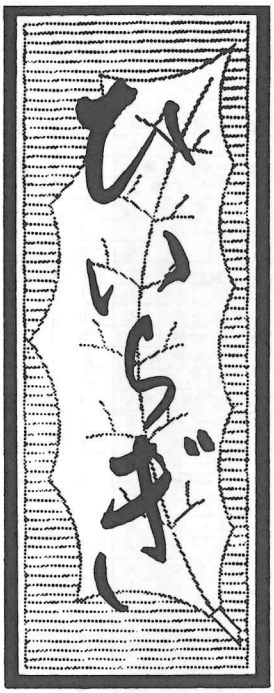


<題字は初代会長 新美保三氏>

〒475-0903 半田市出口町1の30
愛知県立半田高等学校　柊会
電　話　(0569) 21-0272
http://www.office-with.com/hiiragikai/
印　刷　半田中央印刷株式会社

ごあいさつ

柊会会長　榊原卓三

皆様にはお元気でご活躍のこととお喜び申し上げます。日頃から柊会にご支援を賜りありがとうございます。

今年度は、三年に一度の柊会総会および東京柊会総会が開かれる年であると同時に、創立記念式典を挙行する年となっております。ご存知のとおり、県立女学校設立一〇〇年、半田中学校九〇年、市立女学校七〇年、半田高校六〇年の節目の年を迎えることとなりました。先回まで夏に行われておりました柊会総会の開催を秋口に変更し、十一月七日(土)に創立記念式典と同日開催といたしました。例年にも増して多くの会員の皆様に出席していただくことを期待しております。

さて、長らくご心配をおかけしておりました柊陵会館全面改築事業ですが、皆様のご協力、ご支援を得まして、無事、平成二十年一月三十一日に竣工式を迎えることができました。当日は午後二時から柊陵会館の二階で榊原伊三半田市長(高10)を来賓にお迎えし、歴代校長先生、歴代ＰＴＡ会長、また東レ株式会社、知多信用金庫、半田信用金庫をはじめとする高額寄付者の皆様のご臨席を得て新柊陵会館の完成を祝うことができました。この日を迎えるにあたりましては、約四千二百人の会員の皆様から真心こもるご寄付をいただき本当にありがとうございました。関係の会員の皆様には、お礼を兼ねて柊陵会館公開日のご案内を差し上げ、同年四月二十七日(日)、二十九日(祝)の公開日当日には合わせて二百三十名を超える方々に足を運んでいただきました。現在、新柊陵会館は生徒たちの学習や芸術の発表の場として、また同窓生の皆様の会合の場として有意義に活用されております。母校にお立ち寄りの際は、是非とも新柊陵会館をご覧いただければと思います。

長くなりましたが、会員の皆様のますますのご活躍とご健勝ご多幸をお祈りしてごあいさつといたします。

ごあいさつ

校長　水野重夫

平成十八年四月に半田高校に赴任をさせていただきましてから、早いもので三年が経過しました。この間、柊会会員の皆様には、本校の教育活動への温かいご理解とご支援、ご協力を賜りありがとうございました。特に、柊陵会館の全面改築事業につきましては、準備期間中に建築資材の高騰や耐震強度偽装等の予期せぬ問題が発生し、皆様には大変ご心配をおかけすることになりましたが、平成二十年一月に無事竣工の日を迎えることができました。これもひとえに、常任幹事の皆様を中心とした会員の皆様方のご支援、ご尽力の賜であると存じ、この紙面をお借りして深く感謝を申し上げる次第です。

さて、本年は三年に一度の柊会総会が開かれる年でありますが、明治四十三年の知多郡立高等女学校創立から一〇〇年、大正八年の愛知県立第七中学校創立から九〇年、さらに昭和十五年の半田市立高等家政女学校創立から七〇年、そして昭和二十四年にこれらの学校が統合して現在の愛知県立半田高等学校が発足してから六〇年という節目を迎える記念すべき年でもあります。来る十一月七日(土)に半田市福祉文化会館(雁宿ホール)で総会と創立記念式典を行うことが決定されていまして、既に準備が着々と進められております。また、八月二十九日（土）には東京柊会が開催されると伺っております。東京柊会の皆様に三年ぶりにお目にかかるのを今から楽しみにしております。

最近の学校の状況をお知らせします。既にご案内の柊陵会館ですが、建物は重量鉄骨二階建て、総面積四七八・四平方メートル(約一四五坪)で、一階に学習室、書庫、トイレ、二階に学習室、会議室、指導員室があります。学習室は一、二階とも七十六席ずつを用意しており、生徒たちが学習に集中できるよう、快適な学習環境を提供しています。また、二階の学習室にはホールとしての機能も持たせ、同窓会やＰＴＡ、学校の様々な行事に活用しております。会館の周囲の整備はこれからですが、二十九回生の皆さんには、卒業三〇周年記念事業として会館東側の庭の整備をしていただき、芝生の丘に「少年とごん」のブロンズ像をご寄贈いただきました。三〇回生の皆さんには、旧柊陵会館の歴史と「柊陵会館」という大きな文字が刻まれた館銘板を寄贈していただきました。なお、前回の会報で紹介できませんでした二十八回生の皆さんには、校門(正門)の左手に「校歌の碑」を整備していただいております。

柊陵会館の完成とともに、施設等の整備で特筆に値するのは、ＰＴＡの方々の全面的なご支援により、平成十九年の夏からすべての教室にエアコンが整備されたことです。これにより、夏季、冬季における授業や補習等の学習環境が飛躍的に向上しました。同窓会やＰＴＡの皆様のこうしたご支援の結果は、進路実績にも徐々にではありますが反映されてきております。日頃、生徒たちには「品格のある半高生」を目指しつつ、「高い志を最後まで持ち続け、決して夢を諦めない」という姿勢を貫くよう指導しております。同窓生の皆様におかれましては、こうした本校の取組みをご理解いただき、今後とも様々な場面でのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

半田高校の進路状況

本校では進路指導を進路行事、各種テスト及び調査、補習、進路資料及び進路情報の四分野に分け、生徒の主体的進路決定能力の育成を目指して指導を推し進めています。

「高い志を掲げ、それを果たす」ことを目標に、「総合的な学習の時間」をキャリアプラニング（CP）と位置付け、指導の一つの軸とし、さらに時期に応じた進路行事をもう一つの軸として、継続的かつ特色のある指導が展開されています。具体的には、「職業調べ」、「キャリアガイダンス」、「大学学部学科研究」として、講習会や模擬授業、オープンキャンパスなど生徒が自ら積極的に自分の進路を考える場を提供しています。もちろん、これらの指導の背景には、「自らの生き方・在り方」を考えさせるという理念があり、生徒が学問、職業そして社会を見る目を本当に養うことができたかを、教員自らも問う場となっています。

また、近年受験を取り巻く環境が大きく変化し、刻々と変化する状況を生徒に知らせる役割がますます大きくなってきました。特に、大学入試センター試験の7科目化や難関国立大学の後期日程廃止の動きなどは、生徒に直接かかわるものであり、最新の情報を生徒のニーズに応じて提供できるよう心掛けています。進路指導室がその情報発信の中心地となり、資料調べのためだけでなく、進路相談のためにも多くの生徒が足を運んでいます。このように、生徒の豊かな進路実現が達成され、生徒や父母だけでなく教員にも「あの学校に行きたい」と思われるような進路指導を目指し、今後とも真摯に努めて参りたいと考えております。

過去3年間の大学・短大合格者数

		19年	20年	21年
国立大学	北海道大	4	5	2
	筑波大	2	4	2
	千葉大		3	2
	お茶の水大	1	3	
	東京大	1	1	3
	東京外国語大	1	3	
	東京工業大		1	1
	東京農工大	1	1	1
	横浜国立大	3	6	3
	富山大	2	2	1
	金沢大	3	6	4
	福井大	1		1
	信州大	6	7	4
	静岡大	6	8	10
	愛知教育大	23	22	29
	名古屋大	28	22	35
	名古屋工業大	4	10	13
	岐阜大	10	7	6
	三重大	7	12	9
	滋賀大	5	1	3
	京都大	3	3	5
	京都工芸繊維大			1
	大阪大	2	7	4
	神戸大	2	3	6
	奈良女子大	4	2	2
	広島大	2	3	3
	高知大			1
	九州大	2	5	
	長崎大			1
	鹿児島大		1	1
	その他	7	7	
	小計	130	155	153
公立大学	高崎経済大	1		1
	国際教養大		1	2
	首都大東京	3	1	1
	都留文科大	1	1	1
	愛知県立大	18	10	8
	名古屋市立大	16	9	7
	大阪府立大	2	1	1
	兵庫県立大	3	1	1
	神戸市外国語大		2	1
	その他	11	11	
	小計	55	37	23
	合計	185	192	176

		19年	20年	21年
私立大学	慶応義塾大	3	12	9
	早稲田大	13	23	19
	上智大	1	3	4
	明治大	8	13	16
	中央大	8	10	5
	東京理科大	21	27	18
	南山大	162	178	196
	愛知大	21	19	21
	名城大	83	80	47
	中京大	77	78	34
	同志社大	25	22	21
	立命館大	91	89	79
	関西大	3	3	5
	関西学院大	4	10	7
	その他	234	212	228
	私立大学合計	754	779	709
総計		939	971	885

数字は現浪合わせた合格者数

柊陵生健闘す

この三年間、運動部ではヨット部・水泳部、文化部では放送部・自然科学部が全国大会や東海大会に出場するなど輝かしい成績をあげた。

十八年度、ヨット部の石川諭君、野垣良太君は、全国高等学校総合体育大会ヨット競技に出場した。また、同じくヨット部の鈴木智香さん、石川諭君、原裕一郎君、坂野真実さん、松清久美さん、野垣良太君、酒見建至君は、東海高等学校総合体育大会ヨット競技に出場した。

十九年度、水泳部の矢田五郎君は東海高等学校総合体育大会水泳競技に出場した。また、ヨット部の坂野真実さんと松本彩さんは東海高等学校総合体育大会ヨット競技に出場した。馬場幸恵さんは、マーチングバンドバトントワリングで東海大会と全国大会に出場した。自然科学部の小林幹康君と奥尾隆弘君は東海地区高等学校化学研究発表交流会に出場した。

二十年度、水泳部の矢田五郎君は東海高等学校総合体育大会水泳競技に出場した。ヨット部の坂野真実さん、林拓実君、堀田真吾君、山本雄太君、松本彩さん、榊原弘子さんは東海高等学校総合体育大会ヨット競技に出場した。また、松本彩さん、榊原弘子さんは全国高等学校総合体育大会ヨット競技にも出場した。放送部の熊谷あかねさん、澤田安里さん、磯村美沙緒さんは、NHK杯全国高校放送コンテストの創作テレビドラマ部門で全国大会に出場した。同じく放送部の盛田記子さんは全国高等学校総合文化祭の放送部朗読部門で全国大会(群馬県)に出場した。

柊賞・あさあけ賞の栄誉

「柊賞」は本校在学中、学業及び文化もしくは運動の分野において、優れた業績を挙げ、本校の歴史と伝統を担うに足ると認める生徒に授与される。

第二十六回(十八年度)新海大智君
第二十七回(十九年度)小林幹康君
第二十八回(二十年度)岩川純也君

「あさあけ賞」は本校在学中、文化もしくは運動の分野において、資質能力を十分発揮して、優れた業績を残した生徒に授与される。具体的には県大会以上の入賞者である。

第二十五回(十八年度)三十六名
第二十六回(十九年度)三十二名
第二十七回(二十年度)三十二名

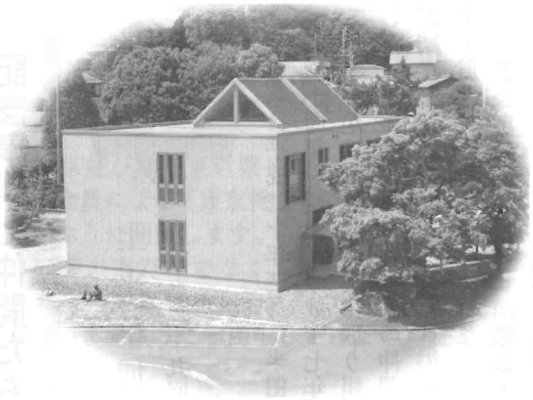
在校生論文顕彰事業

本事業は規程に基づき、毎年半高卒業三十周年を迎える同窓生有志が中心となって推進している。第十七回(二十八回生担当)のテーマは「不易と交流」(応募数一五九編)。第十八回(二十九回生)のテーマは「違和感」(一二六編)。第一九回(三〇回生)のテーマは『大人の定義～私の考える「大人」とは～』(三九八)。今年度は二十回の節目の年、多くの方に支えられ充実してきた事業である。

最優秀賞受賞者

第十七回(十八年度)鈴木千暁(三年)
第十八回(十九年度)東塚麻由子(三年)
第十九回(二十年度)田中康隆(二年)

柊陵会館全面改築報告



新柊陵会館　全景

募金は、目標額八千万円を超え、同窓会やＰＴＡをはじめ、多くの皆様の浄財により建築資金が集まりました。平成十九年七月末日に積水ハウスとの建築契約を行い、十月十三日に地鎮祭、十月末日に建築確認申請書を提出し、十二月三日に確認済証が交付され、翌四日着工となりました。平成二十年一月三十日までに建築工事と愛知県知多建築事務所による検査が終了し、翌三十一日に竣工式が行われました。

建物は、重量鉄骨二階建て、総面積４７８．４㎡（約１４５坪）、一階に学習室・書庫・トイレ、二階に学習室・会議室・指導員室があり、学習室として各階76席、併せて１５２席を用意しました。二階学習室にはグランドピアノをおいて「柊陵コンサート」などができる設計となっています。

２階学習室

柊陵会館募金会計収支報告書（自 平成17年10月14日～至 平成20年3月26日）

（単位：円）

収入		支出	
募金	83,137,873	建築費用	79,015,275
（口座振替）	72,689,640	募金振込手数料	525,040
（現　金）	10,448,233	趣意書印刷発送費	5,301,130
利息	21,294	通信費	168,325
柊会会計	1,899,488	その他消耗品費等	48,885
計	85,058,655	計	85,058,655

あの頃

榎本裕之（半高二十八回生）

わたしにとって半田高校というのは、学びの舎というより、遊びの場であった。今では多分許されないが、四十年程前、この付近の高校はどこも小学校の悪童どもが跳梁跋扈する縄張りであり、半高もそのひとつであった。

記憶は定かでないが当時はまだ、西に背の高い珊瑚樹の垣根に囲まれた定時制の木造校舎だけでなく、半中と記された磨硝子の残る平屋の木造校舎も建っていた。春は、時折小綬鶏が姿を見せるあたりで土筆や蕗の薹を摘み、夏は運動場のプラタナスに毎年出るゴマダラカミキリや蝉たちを捕まえたものである。中庭の池では、蚊帳吊草の竿でザリガニ釣りに勤しみ、それに飽きると自販機でテトラパックの牛乳を買った記憶がある。また、古いコンクリートの本館では、鳩の卵取りなどしていた。草野球に使うボールは、勿論テニスコートからよく頂戴した。

北に田や肥壺の残る野菜畑や麦畑が広がっていて無粋なフェンスなどなく、中学校へは半高を抜け、その畑を越えて通っていた。それが許される、おおらかさが当時はあったと思う。

無事？入学して、部活は弓道部に入った。生来のナマケモノだったわたしは、練習などは二の次であった。北にあった部室で何をしていたのやら、いい加減なものであった。二年生になるとほかの部員達に誘われて、現在のひいらぎ養護学校の東あたりの空き地で、毎日草野球をしていた。またぞろ、使うボールは軟・硬テニス部のボールである。たまたまそれが発覚し、大目玉を食らったという事件もあった。その弓道場は、こんな寒いうちからも泳ぐのかと眺めていたプールの横から、養護学校の東へテニスコート共々移動してしまった。残っているのは、下着も着けずに柔道をやらされた武道館くらいか。

思い返せば、三年間一生懸命勉強した記憶がほとんどない。一年の時は、体育祭の飾り付けに八犬伝に出てくる玉梓の人形を作るため、毎朝出てきてミシンで布を縫う手伝いらしきことをした覚えがある。また、夜遅くまで竜の作り物をサーチライトを当てて作っていた年もあった。そうそう、柊祭で門を作りはじめたのは私達の学級だった。ただ図書館へはよく通った。学習室に改修される前の前の柊陵会館である。あそこで今の生徒のように、一生懸命学習してる者はいなかったように思う。国務大臣だった金森徳次郎の書が掛かっていたのを妙に覚えている。

徒然書き散らしてきてみると、暢気で平々凡々とした時を過ごしてきた。禁止されていたマフラーをして、校長先生になられた某生活指導の先生に、手を振って帰っていた同級生の姿を時折思い出す。実に、のんびりした時代であった。

夕方になると今も流れてくる校歌と時折思い出したように鳴く南の古池に住む蝦蟇の声を聞きながら、あの頃の記憶がふとよみがえるのであった。

記念事業と仲間たち

土平章博
（半高二十九回生）

私たちは平成二十年三月に半田高校卒業三十周年を迎え、平成十七年から二年半をかけて記念事業に取り組みました。その過程でたくさんの仲間の力が結集し、二十九回生らしさ溢れる事業を展開できたと考えています。

同窓会事業では、プレ同窓会として「二十九年目の生徒総会」、翌年に本番の「卒業三十周年記念同窓会」を開催。三年・二年・一年次それぞれのクラスで再集結するクラスメート再生テーブルシャッフルや趣向を凝らした演出もあって、感動的な素晴らしい宴となりました。記念同窓会の模様を収録した写真とDVDも後日配布しました。

柊陵セミナーは「人生を百倍楽しむ方法」と題し、健康作りインストラクターとフリーアナウンサーのふたりがトーク形式で講演。健康体操の実演も交えて、在校生に熱く語りました。

論文顕彰では「違和感」（それって違うんじゃない?）をテーマに在校生から論文を募集。既成概念に疑問を投げかける主張を論じてもらいました。

記念品事業では、母校の大先輩である新美南吉氏の童話『ごんぎつね』にちなんで銅像「少年とごん」を制作。建て直されたばかりの柊陵会館の東に丘を造成し、その頂に銅像を設置。この模様は新聞各紙に掲載されました。

事業期間中には「生徒会新聞」を五回発行。卒業三十年の記念日にあたる三月一日には真新しい柊陵会館で報告会を開いて事業を締めくくりました。

記念事業をきっかけに親睦会や行楽、スポーツ観戦、ゴルフコンペ、コンサート、落語会など、さまざまなイベントが催されています。先頃は東京でミニ同窓会も開かれました。また、平成十五年からインターネット掲示板「半高二十九回生の談話室」を設けており、現在も交流の輪が広がっています。

私もひょんなことから記念事業の事務局を任され、運営部の一員として事業全般の調整役をしてきましたが、同級生の生き生きとした活躍を見て、半高生のパワーを再認識したしだいです。高校時代には面識のなかった多くの同級生とも知り合うことができました。ここで生まれた交流は私たちの人生に素敵な彩りを与えてくれることでしょう。それこそが記念事業を実行する最大の意義なのだと実感しています。

150名以上の同級生が集まった記念同窓会

「柊」の縁を繋いで

岩田美成
（半高三十回生）

二〇〇九年三月七日。穏やかな陽光のさす好天日、はるばる愛知からの参加者も含め総勢十八名が田町のイタリアンレストランに集いました。「関東柊三〇会」第一回の開宴です。名前は立派ですが、会の目的は『同窓生の親睦』、役員の仕事は『親睦会の開催』と単純明快、シンプルな会です。三十年ぶりの再会となった人もいて、乾杯のあとの近況報告では何故か「初めまして…」ではじまる挨拶もあり、あっという間に三時間が経過しお開きとなりました。二次会は「東京タワー」。昭和三十三年に誕生、三三三メートルのタワーは『三』の縁で結ばれた三〇回生には必然の場所でした。続いて品川の居酒屋での三次会。ラストオーダーまでの数時間、話の尽きることはありません。皆が延々と飲み続ける体力（気力）の持ち主であることを確認し、第一回を無事終えることが出来ました。翌朝より参加者からのお礼メールが寄せられ、開催できた喜びの余韻に浸るおまけも付きました。

『縁』というものをとても感じる今日この頃です。昨年七月、社命により東京駐在となり、「何か人と人の繋がりを大切にしていきたい」そんな思いから、皆さんにお声掛致しました。八月の卒業三十周年の同窓会に出席したことにも背中を押され、三十周年記念事業の連絡のために開設した電子メールポストに投稿したのをきっかけに、六人のメンバーが集まり、計画作りから始めました。個人情報の取扱いなど、いきなりぶちあたった壁も地元の仲間の協力で何とかクリアできました。打ち合わせと称する飲み会も翌朝にはどこからともなく議事録がメール配信され、仲間の頼もしさに感心したものです。この会に賛同支援していただいた皆さんに本当に感謝します。

好きな言葉があります。

「縁尋機妙（えんじんきみょう）・多逢聖因（たほうしょういん）」

—良い縁がさらに良い縁を尋ねて発展していく様は誠に妙なものである。また、いい人に交わっていると良い結果に恵まれる—という意味です。

柊三〇会がますます良縁となることを望んでやみません。

関東柊三〇会一同

東京柊会第11回総会・懇親会のご案内

東京並びに関東近県にお住まいの柊会会員による『東京柊会』の総会を三年ぶりに開催します。

同期の方だけでなく、先輩・後輩をお誘いあわせの上、是非ご出席くださいますようご案内申し上げます。

記

日　時　平成21年8月29日(土)
正午～午後2時
混雑緩和のため受付開始は午前11時からします。

会　場　日本工業倶楽部三階大ホール
東京都千代田区丸の内1－4－6
TEL　03－3281－1711

会　費　一般会員　7,000円
学生会員、旧職員及び75歳以上の会員は無料です。

連絡先　㈱アーツ＆クラフツ
建築研究所気付
東京柊会事務局　杉浦伝宗
TEL　03－3402－5315
FAX　03－3402－5316
東京都港区北青山2－12－23
Uビル302

東京柊会
http://blog.goo.ne.jp/t-hiiragi

お願い
関東地区在住の方には『案内状』と『返信はがき』を同封しております。総会・懇親会の出席のお返事は『返信はがき』にご記入の上、郵送してください。よろしくお願いします。

平成18年度柊会収支計算書
(自平成18年4月1日～至平成19年3月31日)

(単位:円)

収入	
前年度繰越金	13,141,220
平成18年度卒業者入会金	1,256,000
名簿委員会より繰り入れ	3,526,509
利息(通常郵便貯金)	41
計	17,923,770

(単位:円)

支出	
総会関係費	4,878,779
(懇親会費)	876,310
(印刷費)	768,869
(郵送費)	2,834,740
(その他)	398,860
論文顕彰事業協賛金	300,000
柊賞経費	55,000
会議費	258,557
「柊陵」第50号	94,248
慶弔費	51,927
通信費	69,605
旅費	40,280
その他	3,000
次年度繰越金	12,172,374
計	17,923,770

繰越金内訳
通常郵便貯金　3,172,374円
定額郵便貯金　9,000,000円

平成19年度柊会収支計算書
(自平成19年4月1日～至平成20年3月31日)

(単位:円)

収入	
前年度繰越金	12,172,374
平成19年度卒業者入会金	1,264,000
半田高校定時制同窓会より	1,870,000
柊会名簿売上金	3,000
利息(通常郵便貯金)	1,458
計	15,310,832

(単位:円)

支出	
募金会計拠出金	1,899,488
柊陵会館関係費	1,273,193
(行事費)	129,708
(礼状経費)	248,067
(感謝状経費)	85,007
(記念品経費)	647,821
(整備費)	162,590
論文顕彰事業協賛金	300,000
柊賞経費	55,000
会議費	16,916
「柊陵」第51号	95,025
弔費(弔電)	4,283
通信費	34,715
旅費	72,800
その他	10,500
次年度繰越金	11,548,912
計	15,310,832

繰越金内訳
通常郵便貯金　2,548,912円
定額郵便貯金　9,000,000円

平成20年度柊会収支計算書
(自平成20年4月1日～至平成21年3月31日)

(単位:円)

収入	
前年度繰越金	11,548,912
平成20年度卒業者入会金	1,252,000
助成金(志)	50,000
利息(通常郵便貯金)	1,679
計	12,852,591

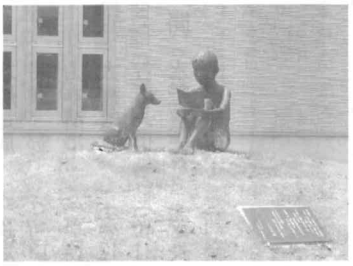
(単位:円)

支出	
柊陵会館公開経費	31,000
論文顕彰事業協賛金	100,000
柊賞経費	55,690
「柊陵」第52号	301,560
弔費	70,600
通信費	18,225
次年度繰越金	12,275,516
計	12,852,591

繰越金内訳
通常郵便貯金　3,275,516円
定額郵便貯金　9,000,000円

卒業生からの贈り物 －卒業30周年を記念して－

28回生 校歌碑
(正門西)



29回生 銅像『少年とごん』
(柊陵会館東)

30回生 館銘板
(柊陵会館東)

第18回柊会総会および創立記念式典のご案内

(県立女学校100年・半田中学校90年・市立女学校70年・半田高校60年)

会員の皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、例年８月に開催する総会を、今年度は創立記念式典の開催に合わせて、下記のように秋に開催するよう企画いたしました。今年は、愛知県知多郡立高等女学校設立100年、愛知県立第七中学校90年、半田市立高等家政女学校70年、愛知県立半田高等学校60年の節目の年になっております。

ぜひ、お誘いあわせの上、多数の会員の皆様のご出席をお願い申し上げます。

記

日　時：	１１月７日（土）	12時半より	受　付
		１時	総　会
		２時	記念式典
		３時	記念講演 名古屋大学大学院　准教授 新美　倫子　先生 名古屋大学大学院　准教授 服部　美奈　先生
		５時	懇 親 会
会　場：	半田市福祉文化会館	大ホール（総会～講演会） 講堂　（懇親会）	
	愛知県半田市雁宿一丁目２２番地の１（〒475-0918） ０５６９－２３－７３３１		
交　通：	名鉄知多半田駅西口から徒歩３分		
会　費：	３,０００円（懇親会費）		

※総会、記念式典、記念講演のみのご出席につきましては、「返信はがき」の該当の欄に○をお付けください。この場合は、会費は頂戴いたしません。８月２０日までにお返事をお願いします。

※懇親会まで、または懇親会のみご出席のかたも同様に、「返信はがき」の該当の欄に○をお付けください。準備の関係もございますので、必ず８月２０日までにお返事をお願いします。

※今回の柊会総会および創立記念式典は、半高第２８・２９・３０回生が担当させていただきます。どうぞよろしくお願いします。

柊会役員（案）

平成21年5月16日の柊会常任幹事会で以下の方々を役員候補として選出しました。平成21年11月7日の柊会総会で承認後、正式に役員となります。

会　長　榊原卓三（高11）
副会長　山脇美枝子（高11）
　　山内和之（高15）
　　大橋利康（高17）
　　森　由美子（高19）
　　竹内啓二（高24）
会　計　木船是周（夜定9）
　　間瀬　宏（高13）
会計監査　山本清澄（事務長）
　　大橋啓三（高17）
顧　問　古川一也（高21）
　　水野重夫（校長）
　　山田耕市（前会長・中16）

編集後記

今回の『ひいらぎ』には大切な柊会総会・創立記念式典のご案内を掲載しています。東京柊会総会の日程に間に合うように発行するため、柊会総会・創立記念式典までには期間がありますがどうぞお忘れなく、ぜひご出席いただきますようお願いいたします。

編集委員　榊原洋子（高28）
　　中尾啓子（高28）
　　清水佐知子（高28）
　　土平章博（高29）
　　蟹江紀代美（高29）
　　榊原雅晃（高30）
　　新美　徹（高30）
　　立田　悟（事務局・高31）